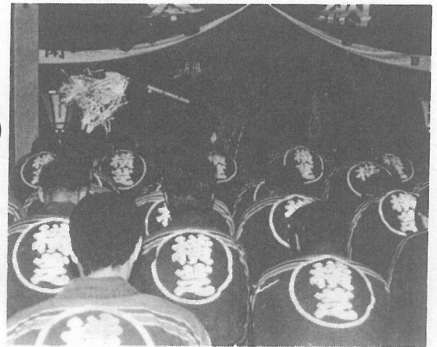




無火災を祈願

町消防団本部

町消防団本部の役員・団員は新年早々金刀比羅神社に参拝し、無火災・無事故を祈願。心新たに昭和59年のスタートを切りました。(1/3)



「美幸演歌」 大観衆を魅了

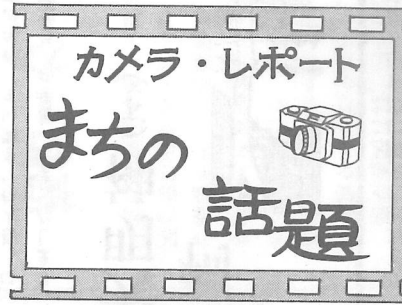
商工会主催の「川中美幸ショー」が、横中体育館で行われました。昼夜三回の公演に、つめかけた観客は三千人を超え、生で聴く美幸節に、盛んに拍手と歓声を送っていました。(1/16)

青年団の 「おいしいプレゼント」

老人ホーム慰問

町青年団(大木和仁団長)の16名の皆さんが、12月25日に老人ホームを慰問し、モチつきを行いました。毎年恒例となっているこの行事、お年寄りたちも非常に楽しみにしているとのことと、つぎたてのモチはアツという間に、売り切れ。その後団員たちは、お年寄りの部屋を訪ねて回り、楽しく懇談しました。

お年寄りは大喜び



なごやかに新年交歓会

新春を祝う新年交歓会が、町内の役職者など150名を集め、文化会館で開かれました。参加した方々は、なごやかな中にも年頭に当たっての決意を新たにしていました。(1/7)



自然を生かした造形美

ねぼく

根木みがき18年

お手並 拝見

「庭に転がっていた小さなケヤキの根っこ。何となく削っていると、異様な木目や柄が、これは……」と始めたのが根木みがきのきっかけ、と語る安達さん。
それから十八年、ケヤキの根木に魅了されて、灰皿・花台・火鉢・掛け物、ついには二mもあるテーブル・つい立てへとエスカレート。その数、大小二五〇品にもなるそうです。
風雨にさらされ、いじめられた根木には、自然の美しさ素材さがあり、底知れぬ深い味わいを秘めているとのこと。この美を壊さず、殺さず、いかに最大限に引き出すかが、作品づくりの上での重要なポイントで、作者の最も苦心する点だそうです。
畳四枚分もある、大木の根を製材(大割り・小割り)して、一日四時間・約二十日間、精魂をかたむけて取り組んだ作品の一つ一つは、作者の魂が乗り移ったかのように神秘的な輝きを放ち、まるで息づいているかのように見えます。

「私には根木みがきが最高のやすらぎなんです」と作品の手入れに余念のない、安達さんの充実感にあふれた姿が印象的で、いつかまた訪問したい心境にかりたてられました。

安達一照さん
(東町)

